

# Q 愛林の町の今後の目標はあるのか

## A 助成事業を継続していきたい



柏倉議員 我が町は、「愛

林の町」ということで今日まで来ているが、今後どのような目的なり考えているのか。委員会の中で話があった町有林事業の新規採用の問題など、18年度の評価については、どのような評価になっているのか。反省点があるのではないか。

間伐や除伐の計画、または隣接の土地などの見出し杭は分からない所があるのではないか。木を次々に切って、植えただけでは森は育っていかないと考えます。

桜の木などを道路沿いに植えているが随分と育ちが悪いように思えるが、肥料などをやっているのか。上里のオンコの木は植えっぱなしになっており、針金の支えをそろそ

ろ外してもいいのではないか。この点から見ても随分森や植えた木に対して配慮が足りないと思うが考えを伺いたい。

町長 愛林の町は、ご承知のとおり昭和57年に全国に先駆けて「愛林の町」を宣言して、毎年、愛林思想の向上のために記念植樹祭の実施、あるいは町有施設に緑化木の植栽などを積極的に行ってきたところ。また、地域の

森林の造成と適正な保育管理を推進するために、町独自の補助事業を創設したりして、管内的にも保育の行き届いた森林が多く造成されている状況となっています。

伐採跡地の造林事業は、木材価格の低迷、国における森林整備事業、これの補助金枠の削減などによって枠が当たるまで2年から3年待ちという状況になっています。町としても一部負担しながら、森林整備地域活性化支援交付金の制度を使ったり、21世紀北の森づくり推進事業や機能強化対策事業を導入して森林造成を支援し、19年度予算においても愛林の町緑資源を守る推進事業で500万円を計上しています。今後とも愛林の町としての助成事業を継続し、再生可能な資源として森づくりに努めていきます。



造林の肥料については入れていませんが、街路樹については肥料を入れています。上里のオンコ

の木等には実際に見させていたでいて、それから思っています。

見出し杭等の関係は詳しく承知していませんので、予算質疑の中でしていただければ担当から詳しくお答えできるかと思えます。

## 仮道路の 存続は できないか

柏倉議員 本岐の国道改修による仮道路について、地元の方より仮道路を残してほしいという要請があります。残すことができるかどうか、問題点があれば納得のいく説明を伺いたい。

16メートル以上のトレーラーやダンプなどの通行も含め、仮道路はできるだけ残すよう配慮いただきたい。

## 関係機関と 協議し 検討したい

町長 仮道路について

は、国道の迂回路として設置したもので、開発建設部が土地所有者との間で協議して、平成21年3月まで借りるということで、国道整備が完了すれば元の木材工場の用地として現状復旧してお返しする契約となっています。

迂回路を町道として残すことは一部大昭の農家、相生の有志の方からの要望を受けた経過や、大昭の自治会からも出されたことも聞いています。しかし、迂回路に隣接した町道378号線も現存している状態であり、その扱ひも検討しなければならぬことで、仮道路を残してほしい方、残さなくても良い方、それと土地所有者がおります。所有者としては、現在所有地が分断され不便を感じており、仮道を撤去して土場として使いたい意向のようで、今後は協議会の方たちや土地所有者、道路管理者、地元自治会等とも協議しながら、議会の所管委員会でも相談し検討していきたいと考えています。

トレーラーについては、仮道路を残すとすれば、本線と直角に結びつくようになるので、通行が非常に難しくなるかと思えます。それらを含めて、地元の方たちとお話し合いができればと思えます。







# Q 町政方針の具体策を聞きたい

## A 町民が参加する魅力再発見ツアーにしたい



小田島議員 佐藤町長は、

3月定例会において21項目にわたる町政方針を発表されたので、次の3点につき具体的方策を伺います。

①自主・自立のまちづくりの項目の中で、津別町魅力発見ツアーを実施して、第5次津



別町長期総合計画に反映したいと記述しているが、どのような具体策があるのか。新聞報道によれば、カメラを肩に掛け、メモを片手に町内を歩きながら、何かを発見しようと考えているようだが、具体的方策は何か伺います。

②次に、企業立地の項目の中で、本年度新たな地域産業づくりを求めて、企業立地を積極的に進め、雇用の場の確保と産業の育成を図り、町内外の企業と連携しながら、津別ブランドの形成を目指すとして述べているが、具体的方策を伺います。

③次に、地域の医療体制の項目の中で、医療過疎を招くことのないよう万全を期するとあるが、先般北見赤十字病院の内科と消化器科の外来診療体制が、4月2日から紹介外来、予防外来に移行する。内科専門分野の血液内科は、新たに入院する患者の受け入れは行わず、入院治療から撤退すると報道されたが、地域の診療体制の維持確保にどのように対応するのか伺います。



町長 ①津別町魅力発見

ツアーについては、以前まちおこし大学で学んだ手法で、参加を希望する町民の方が、カメラなりメモ帳片手に持って、自由に町内を回って歩きながら、今まで気の付かなかったものを、もう一度見直し発見するためのツアーを組んでほしいと考えています。また、北網広域圏の事業の中で実施することも考えています。

②企業立地の取り組みについては、以前委員会の中で試食いただいた、津別のサケ・マスふ化場のほっちゃれの活用を、下関の林兼産業株式会社

が道内の販売ルートを拡大する方向で検討も進んでおり、地元津別町としても、町内外の企業と連携を取りながら実現を前提に話し合いを進めています。また、恩根地区の安愚楽牧場の造成については、6月頃には農林水産省の許可も下り、新築工事も着手の予定で、地元雇用は20人程度考えており、飼育頭数も200頭が2千頭の規模になり、期待が持てます。

③地域の医療体制については、日赤病院に照会した結果、全体的な対応は新聞報道のとおりであるが、現在入院中、通院中の患者は継続して診察を行うものであり、総合内科を新設するので、専門外のペテラン医師が担当する状況になります。

### 児童・生徒の健康診断はどうなっているか

小田島議員 児童・生徒の健康診断について伺います。健康診断は、学校保健法など法令に定められた各種の診断

が行われているが、本町の実態はどうなっているのか。診断の項目の中には、「眼の疾病及び異常の有無の検査」が明記されているが、この実態について伺います。

### 眼科検診は実施の方向で検討したい

教育長 児童・生徒の健康診断については、就学時健康診断は法令の定めにより就学時の前年において、保護者から就学健診問診票を提出いただき、予防接種の状況、視力、聴力、内科等の項目について問診を行い、学校医等が診断を実施しています。本町の定期健診は、歯科及び総合健診と尿検査をそれぞれ実施しているが、視力検査は専門医でなく内科検診時において簡易な検診を行っています。眼の疾病、異常の有無については、急性結膜炎・流行性結膜炎が注目されておりますが、本町には眼科医がおりませんが、本町で、学校保健会、北見・美幌の医師会と協議の上、早期に実施する方向で検討したいと考えています。